

**[成果情報名] 垣根仕立てブドウ「サニールージュ」のホルクロルフェニユロン加用ジベレリン  
早期処理による摘粒作業の省力化**

**[要約]**満開予定日 14～20 日前のジベレリン 25ppm の 1 回目処理時にホルクロルフェニユロン 3ppm を加用し花房浸漬処理すると、花穂が伸長し、満開日がやや早まる。2 回目処理までに先端から 8～10cm までの支梗を残して整形すると、摘粒作業を省力化できる。

**[キーワード]**ブドウ、サニールージュ、ジベレリン、ホルクロルフェニユロン、摘粒省力化

**[担当]**青森産技セ・りんご研・県南果樹部

**[代表連絡先]**電話 0178-62-4111

**[区分]**東北農業・果樹

**[分類]**普及成果情報

---

**[背景・ねらい]**

青森県では、「サニールージュ」を垣根仕立てで栽培し、目標果房重を 350 g、1 粒重を 6 g、着粒数を 50～60 粒としている。ジベレリン処理は満開時と満開 10 日後の 2 回（以下、慣行）行っているが、着粒が良好で密着した果房になりやすく、摘粒作業に多くの労力を要する。そこで、ジベレリン 1 回目にホルクロルフェニユロン液剤を加用し、早期処理することで花穂の伸長を図り、支梗の摘除を主体とした花穂整形により摘粒時間を短縮する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 満開予定日 14～20 日前のジベレリン 25ppm の 1 回目処理時にホルクロルフェニユロン 3ppm を加用し花房浸漬処理すると、花穂が伸長し、満開日がやや早まる（写真 1、表 1）。
2. 満開時から 2 回目のジベレリン処理時期までに、着粒数 50～60 粒を目安に果房の先端軸長 8～10cm の支梗を残し、上部の支梗を取り除くように花穂整形する。満開 10 日後にジベレリン 25ppm で 2 回目の果房浸漬処理をする。着粒密度が低減し、摘粒数が少ないため、摘粒時間は慣行の 2 割程度に削減できる（表 1）。
3. 慣行と比べて、収穫時の果実は着粒がやや粗着となる（写真 2、表 2）。

**[普及のための参考情報]**

1. 普及対象  
ブドウ「サニールージュ」生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等  
垣根仕立て栽培の「サニールージュ」作付地域
3. その他  
サニールージュ〔無核栽培〕の登録内容（平成 23 年 2 月 2 日登録変更）
  - (1) ジベレリン水溶剤  
使用目的：着粒密度低減、果粒肥大促進 使用時期：1 回目 満開予定日 14 日～20 日前、2 回目 満開 10～15 日後、使用濃度：いずれもジベレリン 25ppm、使用方法：1 回目 花房浸漬（ホルクロルフェニユロン 3 ppm に加用）、2 回目 果房浸漬
  - (2) ホルクロルフェニユロン液剤（フルメット液剤）  
使用目的：着粒密度低減、果粒肥大促進 使用時期：満開予定日 14 日～20 日前 使用濃度：ホルクロルフェニユロン 3ppm、使用方法：花房浸漬（1 回目ジベレリンに加用、2 回目ジベレリン処理は慣行）

[具体的データ]

表1 摘粒前の着粒数、着粒密度と摘粒数、摘粒時間 (2011年)

区	ジベレリン処理月日		満開日 (月/日)	着粒数(A) (cm)	軸長(B) (cm)	着粒密度 (A/B)	摘粒数 (粒)	摘粒時間	
	1回目	2回目						(秒)	(対慣行比)
処理	6/ 8	7/ 4	6/23	56.1	8.7	6.4	2.1	11	(16)
慣行	6/28	7/ 8	6/26	68.2	7.5	9.1	14.3	68	(100)

(注) 1 露地雨除け被覆栽培、垣根仕立て、長梢せん定、モンペリー台、9年生  
 2 処理はジベレリン1回目にホルコルフエニロン3ppmを加用、6月25日に果房の先端軸長を8~9cmに整形、  
 慣行は6月23日に先端の花穂長5cmに整形、摘粒は7月9日、調査房数はいずれも10房

表2 満開日及び収穫時の果実品質 (2010~2011年)

年次・場所 ・作型	区	ジベレリン処理月日		満開日 (月/日)	房重 (g)	粒数A 1粒	軸長B (cm)	着粒密度 (A/B)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	
		1回目	2回目								
2010年	軸長8cm	5/18(-18)	6/14	6/ 4	319	49	5.7	9.6	5.1	17.1	0.51
県南果樹部	軸長10cm	5/18(-18)	6/14	6/ 4	385	60	6.0	11.8	5.1	17.2	0.51
無加温ハウス	慣行	6/ 7(+ 2)	6/17	6/ 5	303	50	5.8	8.3	6.1	18.1	0.57
2011年	軸長6cm	6/ 8(-18)	7/ 4	6/23	333	39	8.6	6.7	5.8	17.5	0.49
県南果樹部	軸長8cm	6/ 8(-18)	7/ 4	6/23	457	54	8.4	8.8	6.2	17.6	0.48
露地	慣行	6/28(+ 2)	7/ 8	6/26	395	56	7.1	7.5	7.4	16.8	0.53
2011年	軸長6cm	6/ 7(-15)	7/ 1	6/20	294	42	6.8	6.8	6.2	18.6	0.47
三戸町	軸長8cm	6/ 7(-15)	7/ 1	6/20	363	55	6.4	8.7	6.4	18.6	0.46
露地	慣行	6/24(+ 2)	7/ 4	6/22	412	63	6.3	8.6	7.4	17.7	0.48

(注) 1 区の軸長6、8、10cmは果房の軸長をそれぞれ6~7cm、8~9cm、10~11cmに整形  
 2 ジベレリン1回目処理月日の( )は満開前または満開後日数(日)、調査房数はいずれも10房  
 3 収穫月日 2010年: 8月23日、2011年県南果樹部: 9月26日、2011年三戸町: 9月16日



写真1 満開時の花穂  
(左: 慣行、右: 処理)



写真2 収穫時の果房  
(左から慣行、軸長6cm、軸長8cm、軸長10cm)

((地独)青森県産業技術センターりんご研究所)

[その他]

研究課題名: ブドウ「サニールージュ」の高品質果実の生産・貯蔵技術の開発  
 予算区分: 県交付金  
 研究期間: 2009~2013年  
 研究担当者: 藤村泰樹・久保隆・山道和子